

ニュース

「交流の場」に、
さいたまコープも協力

2月16日に、コープふくしま主催の「交流の場」が、福島市のさくら仮設住宅で行なわれ、さいたまコープ（現：コープみらい）も運営に協力しました。参加者は、スタッフを含め16人でした。さくら仮設住宅では、双葉町から避難した住民48人が暮らしています。さいたまコープは、旧騎西高校（埼玉県加須市）で避難生活を送る双葉町住民への支援活動を継続的に行なっており、双葉町の依頼を受けて、福島県の仮設住宅で生活している住民への支援として「交流の場」の開催に協力しています。



ゲームで盛り上がる参加者。

16日は、コープふくしまの組合員ボランティアが講師となり、フラダンスを踊りました。音楽がかかると、参加者は自然に手足を動かし、皆さん笑顔で楽しんでいました。

コープふくしま地域理事の斎藤恵理子さんは、「さくら仮設住宅には初めて来ましたが、やはり、仮設住宅ごとに雰囲気の違いですね。こちらの皆さんは、元気でですね」と話します。しかし、笑っていられるのは、みんなと一緒に過ごすこの場だけ、と話す参加者も。「だからこそ、こういった『交流の場』づくりに力を入れていきたい」と、さいたまコープ・参加とネットワーク推進室地域ネットワーク部の福岡和敏さん。震災から3年目を迎え、「心の支援」がますます必要となっています。



音楽にあわせてステップ。

ニュース

使用できなかった
下水道料金を還付へ
みやぎ生協



9月～10月にかけて行なわれた「被災者懇談会」の様子。

みやぎ生協は、「被災者懇談会」を一昨年から年に1回開催し、要望を取りまとめ行政などに提出しています。例えば、仙台市では上下水道の使用料金を一括請求しており、被災により下水が使用できなかった世帯で過払いが生じたケースがあります。1月9日にみやぎ生協が市に提出した要請書に盛り込んだ、この下水道料金問題について、今後は請求があれば還付されることになりました。みやぎ生協は「今後も皆さんのくらしの再建を応援したい」としています。

ニュース

組合員が
振り付けで応援
コープあいち



作詞をした女性とはやり取りが続いており、正月にはコープあいち組合員の元に手紙が届いた。

岩手県大船渡市の仮設住宅で暮らす85歳の女性が、自身のボランティア活動をもとに作詞し、東京のジャズピアニストが作曲を担当した応援歌『がんばるぞ大船渡』。コープあいち主催の被災地復興応援ツアーで訪れた大船渡のジャズカフェで、この歌を聴いた組合員が「二人暮らしのおばあさんに笑顔になつてもらいたい！」と、振り付けを考えました。ほのぼのとした振り付けの動画がインターネットで公開されています。

※「コープあいち 復興ムービーチャンネル」でインターネット検索を。